

コートジボワール		Ivory Coast		
		2009年	2010年	2011年
①人口:2,270万人(2011年)	④実質 GDP 成長率(%)	3.8	2.4	△ 4.7
②面積:32万 2,462k m ²	⑤消費者物価上昇率(%)	1.0	1.8	4.9
③1人当たり GDP:1,062米ドル (2011年)	⑥貿易収支(100万 CFA フラン)	2,002,600	1,781,600	2,771,200
	⑦経常収支(100万 CFA フラン)	763,800	230,200	1,175,200
	⑧外貨準備高(100万米ドル, 期末値)	3,267	3,624	4,316
	⑨対外債務残高(グロス)(100万 CFA フラン, 期末値)	5,606,100	5,481,100	6,350,000
	⑩為替レート(1米ドルにつき, CFA フラン, 期中平均)	472.19	495.28	471.87

〔注〕2011年の数値は暫定値
 〔出所〕①②④⑤⑨:経済財政省, ③⑧⑩:IMF, ⑥⑦:西アフリカ諸国中央銀行(国際収支統計)

■大統領選挙後の内政混乱で2011年の経済は低迷

2010年10月、和平達成のカギと期待されてきた大統領選挙が10年ぶりに実施された。しかし11月の決選投票後、前大統領(バグボ氏)と現大統領(ワッタラ氏)の双方が大統領就任を表明し、内政混乱に発展。国連などがバグボ氏退陣を要求し、同国に対し経済制裁を行った。2011年3月末には、アビジャン市でワッタラ氏を支持する共和国軍とバグボ氏を支持する国軍との間で戦闘が始まった。4月11日、共和国軍がバグボ氏を拘束したことから内戦は収束に向かい、5月にワッタラ氏があらためて大統領就任を宣誓した。12月の国民議会選挙では、同大統領率いる共和国主義者連合が最多議席を獲得、2012年3月には新内閣が成立した。

2011年は、これらの内政混乱、国際社会からの経済制裁などにより、実質 GDP 成長率はマイナス4.7%となった。産業別では、食糧(前年比 11.8%増)、輸出用商品作物(19.5%増)、鉱物資源採掘(11.2%増)、エネルギー(2.4%増)を除くすべての部門が軒並み不振だった。需要面では、所得の減少、流通網の混乱、銀行閉鎖などの影響で、最終消費支出は政府部門(8.2%減)、家計部門

表1 コートジボワールの主要商品別輸出入
(単位:100万 CFA フラン, %)

	2010年		2011年	
	金額	金額	構成比	伸び率
カカオ豆	1,227,205	1,428,858	27.3	16.4
石油製品	660,442	654,503	12.5	△ 0.9
原油	537,328	618,452	11.8	15.1
カカオ調製品	657,004	540,385	10.3	△ 17.8
輸出総額(その他含む)	5,063,149	5,232,208	100.0	3.3
原油	835,402	825,924	26.0	△ 1.1
コメ	227,521	268,136	8.4	17.9
一般機械	269,144	178,480	5.6	△ 33.7
魚介類	139,495	155,531	4.9	11.5
プラスチック製品	135,859	131,737	4.2	△ 3.0
輸入総額(その他含む)	3,881,169	3,173,948	100.0	△ 18.2

〔注〕2011年の数値は暫定値。

〔出所〕表2とも、コートジボワール税関総局。

(4.4%減)ともに減少した。総固定資本形成は、企業の活動停止、資源開発や農産品加工などの大型投資プロジェクトの凍結、港湾拡張・橋架設・道路建設・改修などの大規模公共事業の中止が相次ぎ、13.7%の減少だった。

内戦収束後、新政権は速やかに経済再建に着手し、凍結されていた国際金融機関による融資が再開されたことで、経済は下半期以降に急速に回復に向かった。経済財政省によると、2012年の経済は政情安定化を前提に8.1%の急回復が見込まれる。2012年6月26日には、IMF および世界銀行の融資に基づく改革と健全な政策運営が評価され、重債務貧困国イニシアチブの完了基準に到達したと発表された。対外債務の包括的削減は、経済成長の大きな追い風になると見込まれる。

■輸出は増加するも、輸入は内需減退で急減

2011年の貿易額は、輸出が前年比 3.3%増の 5兆 2,322億 CFA フラン、輸入が 18.2%減の 3兆 1,739億 CFA フランとなり、貿易黒字は 2兆 583億 CFA フラン(前年比 74.1%増)に拡大した。ワッタラ氏は、2011年2月から5月初旬にかけて、退陣要求に応じないバグボ氏の資金源を断つため、主要品目であるカカオ豆の禁輸措置を取った。同品目(構成比 27.3%)の輸出の減少が見込まれたが、良好な天候、新種導入に加え、内戦終結後の新政府の輸出促進策(搬出税引き下げ、輸出手続き簡素化、品質基準緩和など)が奏功し、前年比 16.4%増加した。カカオ調製品(10.3%)は、政情混乱が原料(カカオ豆)調達や工場稼働に影響し 17.8%減少した。原油(11.8%)は生産減少を受け数量は減少したが、油価高騰で金額は 15.1%増加した。石油製品(12.5%)は、経済制裁による資産凍結の影響で国内外からの原料(原油)調達が困難となったこと、精製所の備蓄不足、設備保守・点検による休止などで生産が落ち込み、数量、金額とも

に減少した。金(5.2%)は国際市況の高騰もあって、金額、数量とも急増した。

国別では、米国向け(主要品目はカカオ豆・調製品、石油製品、ゴム、木材)が最大だった(構成比 11.9%)。以下、オランダ、ドイツ、ナイジェリア、カナダ、フランス、南アフリカ共和国と続いた。なお、米国はコートジボワールの内政不安を理由に、2004年12月にアフリカ成長機会法(AGOA)の適用を停止したが、2011年10月に再び適用国にした。コートジボワールは AGOA の専門委員会を設置し、米国市場開拓を目指す。

輸入は、生産活動の不振、内需の低迷を反映し軒並み減少した。唯一、食料品の輸入額は価格高騰で増加した。品目別では、最大品目の原油(構成比 26.0%)が、経済制裁と内需減退により、数量は前年比 24.4%減少したが、油価高騰により金額は 1.1%の微減にとどまった。以下、コメ、一般機械、魚介類と続いた。

国別では、原油輸入が減少したものの、ナイジェリアが構成比 23.4%を占め最大だった。以下、フランス(主要品目;穀物、医薬品、電気機器)、中国(電気機器、化学品、自動車)、タイ(コメ、プラスチック製品)、コロンビア(石油製品、セメント)、ベトナム(コメ、繊維製品)、ドイツ(自動車、電子機器)、インド(医薬品、プラスチック製品)が続き、日本は 13 位の輸入相手国だった。

2012 年の輸出は、一部油井の保守による生産停止などを受け原油が減少、カカオ豆も樹木の休眠や一部農園の土壌劣化などによる生産落ち込みが響き、減少するとみられている。石油製品、農産物加工品は、経済環境の改善や周辺国の需要回復により増加が見込まれる。輸入は、生産活動の活発化、内需拡大により、中間財、資本財を中心に急増するとみられる。

■投資も低調

2011 年上半年は政情不安で投資が全面的に停止したが、6 月に新政権が発足して以降、国内情勢が改善され、投資計画の再開や新規投資の動きがみられた。コートジボワール投資促進センター(CEPICI)の認可ベース統計(鉱物資源・石油・ガスの探査と開発、不動産・建設・公共土木事業、金融・銀行・保険サービス部門の案件は含まれない。また商業および輸送については 5 億 CFA フラン以上の案件のみが対象)では、2011 年の投資案件は前年比 61 件減の 54 件で、金額でも 30%減の 1,274 億 CFA フランだった。

業種別では農業(構成比 23.7%)、食品加工(18.0%)、国別ではレバノン(18.9%)、スイス(14.9%)が構成比 10%を超えた。従来、上位を占めていたフランス資本は大きく後退、最近ではアジア、アフリカ勢の攻勢が目立つ。

主な案件としては、スイス企業によるカカオ加工、フランス企業による農産物加工、シンガポール企業による製パンなど食品加工があった。その他製造業では、イタリア企業による製菓、カナダ企業による染色、レバノン企業による化学部門への投資が主だった。また、中国企業による漁業、フランス企業によるサービス業、セネガル企業による流通業で 5 億 CFA フランを超える投資案件がみられた。鉱業では英国企業による金鉱開発で大型投資があった。

■対日貿易は輸出入とも急減

コートジボワール通関統計によると、2011 年の対日貿易は、輸出が 14 億 1,700 万 CFA フラン(前年比 32.1%減)、輸入が 654 億 5,600 万 CFA フラン(24.8%減)で、貿易収支は日本側の黒字だった。

対日輸出は、構成比の約 3 割を占めるカカオ豆が、金額、数量ともに 3 倍に増加したが、6 割強を占める主要品目のカカオ調製品は生産減少により急減(金額 52.8%減、数量 45.6%減)し、貿易規模が縮小した。

対日輸入も急減した。内需減退を反映し、自動車(構成比 34.2%、前年比 30.7%減)、セメント用のクリンカー(10.2%、34.2%減)のほか、スラグサンド、圧延メッキ鋼板を主とする鉄鋼、合成繊維、タイヤを中心とするゴム製品、家電などの減少が目立った。一方、シェアは 1%に満たないが魚介類、乳製品などの食料品、医薬品の輸入が急増した。経済制裁で一時 EU 圏からの輸入が停止され、これらの品目を日本からの輸入で補ったためとみられる。

日本企業では、味の素が 2011 年 12 月に現地法人を設立した。コートジボワールを拠点に西アフリカ 11 カ国で調味料を販売する。2013 年 3 月にアビジャンの工場の操業を開始する予定だ。コートジボワールで勃発した 1999 年末のクーデター後、日本の経済協力案件が停止したことに加え、内政不安の長期化により、商社では駐在員事務所の閉鎖、拠点移転の動きがみられ、2012 年 6 月時点で 1 社を残すのみだ。しかし国内情勢が改善されてきており、日本の経済協力案件も 2009 年以降、再開されたことから、西アフリカ地域の拠点として日本企業が再進出する下地は固まってきている。

表 2 コートジボワールの対日主要商品別輸出入
(単位:100 万 CFA フラン、%)

	2010 年		2011 年	
	金額	金額	構成比	伸び率
カカオ調製品	1,910	902	63.6	△ 52.8
カカオ豆	146	441	31.1	202.5
輸出総額(その他含む)	2,088	1,417	100.0	△ 32.1
自動車	32,351	22,417	34.2	△ 30.7
車両・部品	13,099	12,530	19.1	△ 4.3
セメント用クリンカー	10,189	6,703	10.2	△ 34.2
スラグサンド	7,196	6,419	9.8	△ 10.8
機械機器	5,478	5,498	8.4	0.4
輸入総額(その他含む)	87,064	65,456	100.0	△ 24.8